

---

# 東京都微生物検査情報

## MONTHLY MICROBIOLOGICAL TESTS REPORT, TOKYO

---

第47巻 第4号  
2026年4月号  
月 報



東京都健康安全研究センター

<https://idsc.tmiph.metro.tokyo.lg.jp/>

---

ISSN 1883-2636

## 2025/2026シーズンの東京都における

### インフルエンザウイルス検出状況（2026年2月末現在）

#### 1. はじめに

インフルエンザウイルスは、オルソミクソウイルス科に属するエンベロープを持つ一本鎖 RNA ウイルスである。本ウイルスは、A～D の 4 つの型に分類されているが、このうち、ヒトに主たる流行を起こすのは A 型、B 型のウイルスである。また、それぞれの型はさらに亜型に分けられており、季節性インフルエンザとしてヒトで流行している亜型は AH1pdm09 と AH3 亜型、B 型 Victoria 系統と Yamagata 系統の 4 種類である。

インフルエンザは、我が国では通常、冬季に流行がみられるため、第 36 週（8 月末～9 月初旬）から翌年の第 35 週を 1 シーズンとしている。今回、2025 年 9 月 1 日（第 36 週）から 2026 年 2 月 28 日（第 9 週）までの期間に採取された検体のインフルエンザウイルス亜型の検出状況について報告する。

#### 2. 検査対象・検査方法

東京都内急性呼吸器症候群（ARI）定点医療機関から、感染症発生動向調査事業で搬入された検体を対象に遺伝子検査を行った。

遺伝子検査は、型別可能なリアルタイム PCR 法を用いて検出を行い、さらに、一部の検体は RT nested PCR 法で得られたインフルエンザ HA 遺伝子の一部断片を用いたダイレクトシーケンスにより塩基配列を決定した。さらに、得られた配列は、ワクチン株ならびに過去に流行したウイルス株の配列と比較し、分子系統樹解析を行った。

#### 3. ウイルス亜型の検出状況

ARI 定点医療機関から搬入された 1,628 検体を対象とした遺伝子検査では、638 件（39.2%）からインフルエンザウイルスの遺伝子が検出された。その内訳は、AH1pdm09 13 件（2.0%）、AH3 亜型 436 件（68.3%）、B 型 Victoria 系統 189 件（29.6%）、B 型 Yamagata 系統 0 件（0.0%）であった。また、週ごとの検出状況では、第 36 週以降、インフルエンザウイルスが途切れることなく検出され、第 40 週から第 52 週にかけて AH3 亜型の検出数が増加した（図 1）。2026 年に入ると、これまで優勢であった AH3 亜型は減少し、第 2 週から B 型 Victoria 系統の検出数が増加した。

#### 4. 各亜型の系統樹解析

インフルエンザウイルス各亜型の流行株につ

いて、系統をより詳細に解析するために分子系統樹解析を行った。

AH1pdm09 では、昨シーズン流行株が系統樹上で大きく 2 つのクレード① (clade 5a.2a.1) ・クレード② (clade 5a.2a) にそれぞれ分かれた。また、2025/2026 シーズン流行株は A/Victoria/4897/2022（ワクチン株）と同じクレード①に属した（図 2）。一方、AH3 亜型は、2025/2026 シーズン流行株が、昨シーズン流行株の subclade J 亜系統とは異なる subclade K に属した（図 3）。subclade K は subclade J.2.4 の派生型で、J.2.4.1 に相当する。さらに、B 型 Victoria 系統は 2025/2026 シーズン流行株のほとんどが subclade C.3 に属した（図 4）。昨シーズン流行株のほとんどは subclade C.5 亜系統であった。

#### 5. おわりに

2025/2026 シーズンの東京都内のインフルエンザ流行は、AH3 亜型 (subclade K) によると思われる急激な感染拡大により、2025 年第 45 週に昨シーズンより 6 週早く警報基準を上回った<sup>1)</sup>（図 5）。また、警報は 2026 年第 2 週に一旦解除された後、2026 年第 5 週には B 型 Victoria 系統の大きな流行が発生し、再び警報基準を超え、過去に例がない 1 シーズンに 2 回の警報発出に至った<sup>2)</sup>。

このように、2025/2026 シーズンは前シーズンの AH1pdm09 による一峰性の流行と異なり、AH3 亜型と B 型 Victoria 系統による二峰性の流行を認めた。特に、新型コロナウイルス感染症のパンデミック以降、インフルエンザの流行パターンはシーズンごとに大きな相違がみられるため、次のシーズンがどのような流行パターンを示すか現時点では予想が難しい。引き続き流行に注視していく必要がある。

#### <参考文献>

- 1) ウイルス研究科：東京都微生物検査情報，46(10)，1-4，2025
- 2) 東京都感染症情報センター：東京都感染症週報 2026 年第 5 週

（ウイルス研究科 黒木絢士郎、高橋久美子）

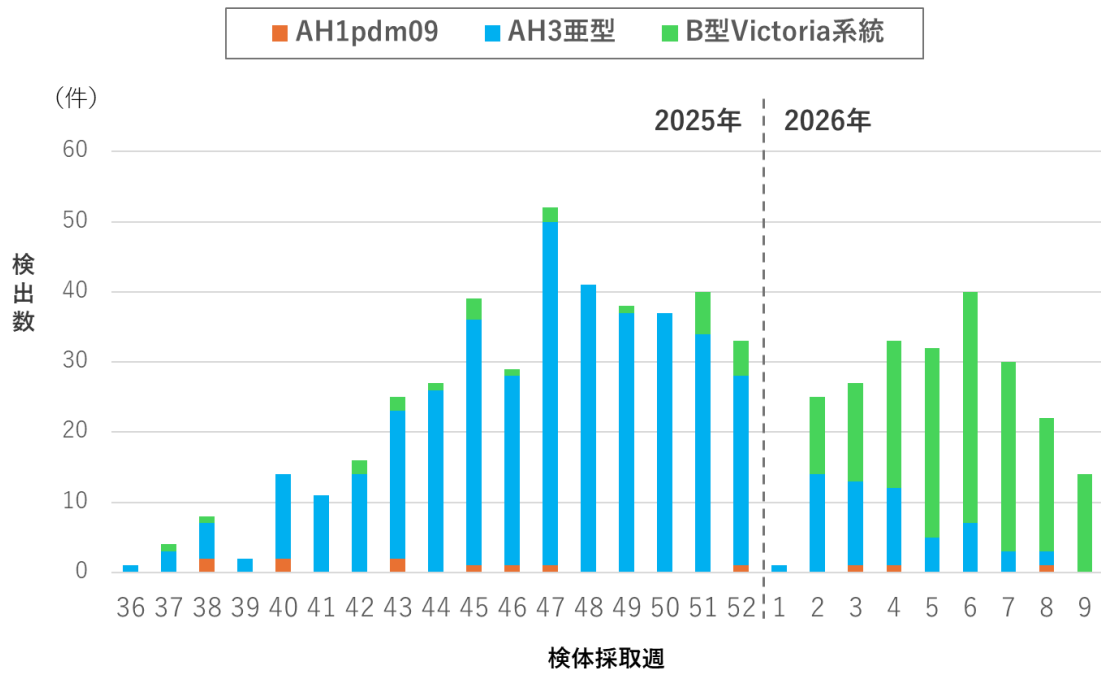


図1. 都内ARI定点医療機関から搬入されたインフルエンザウイルス検出状況 (2025年第36週から2026年第9週)

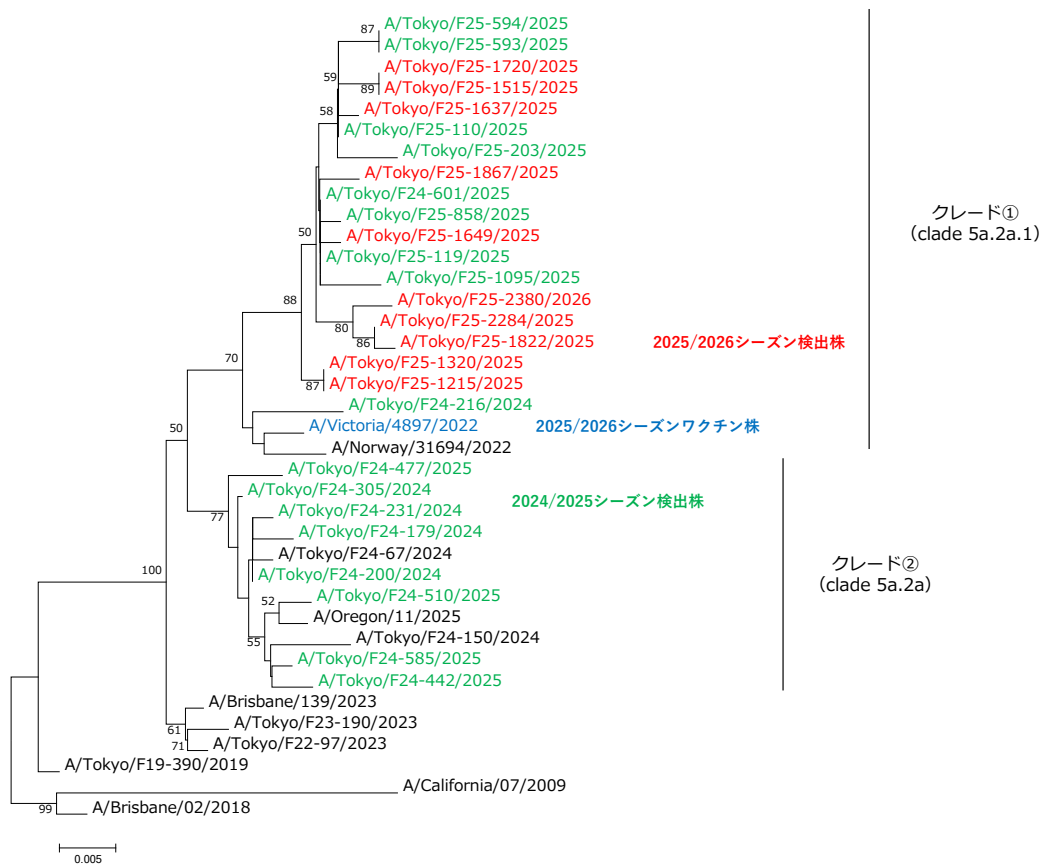


図2. AH1pdm09 インフルエンザウイルスのHA遺伝子系統樹

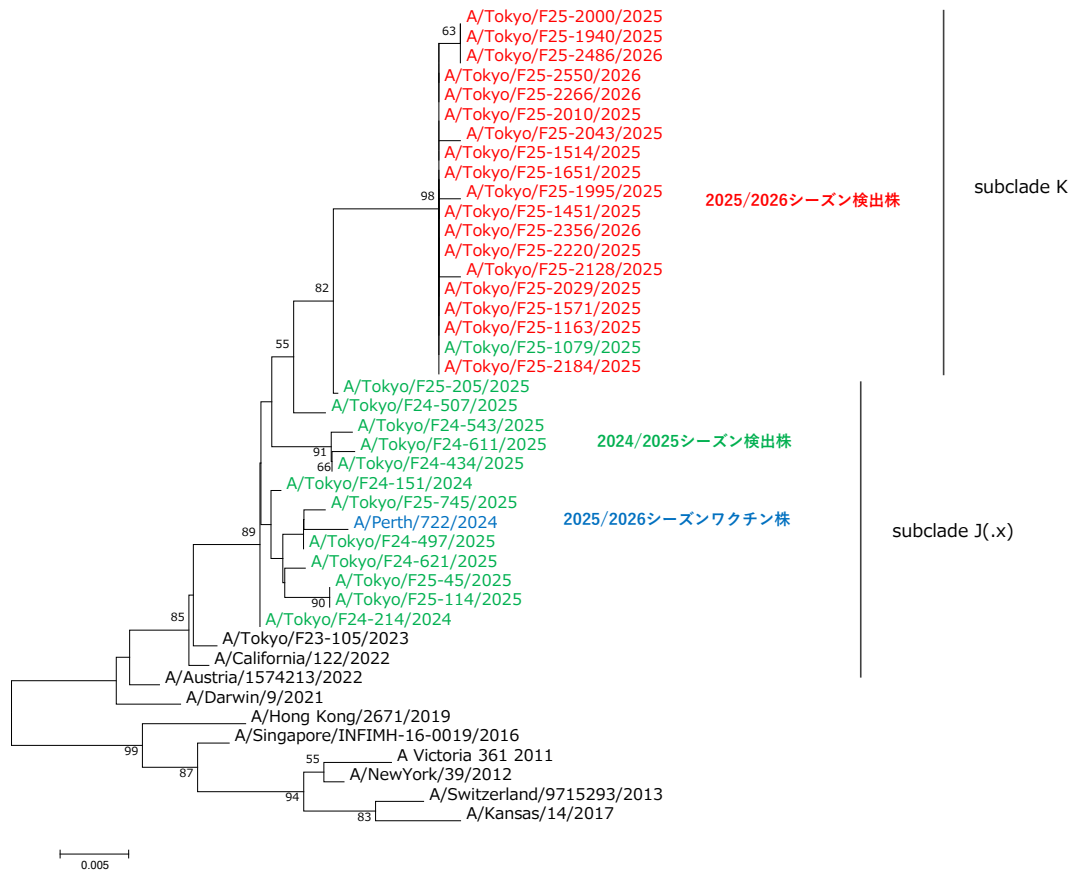


図3. AH3 亜型インフルエンザウイルスの HA 遺伝子系統樹

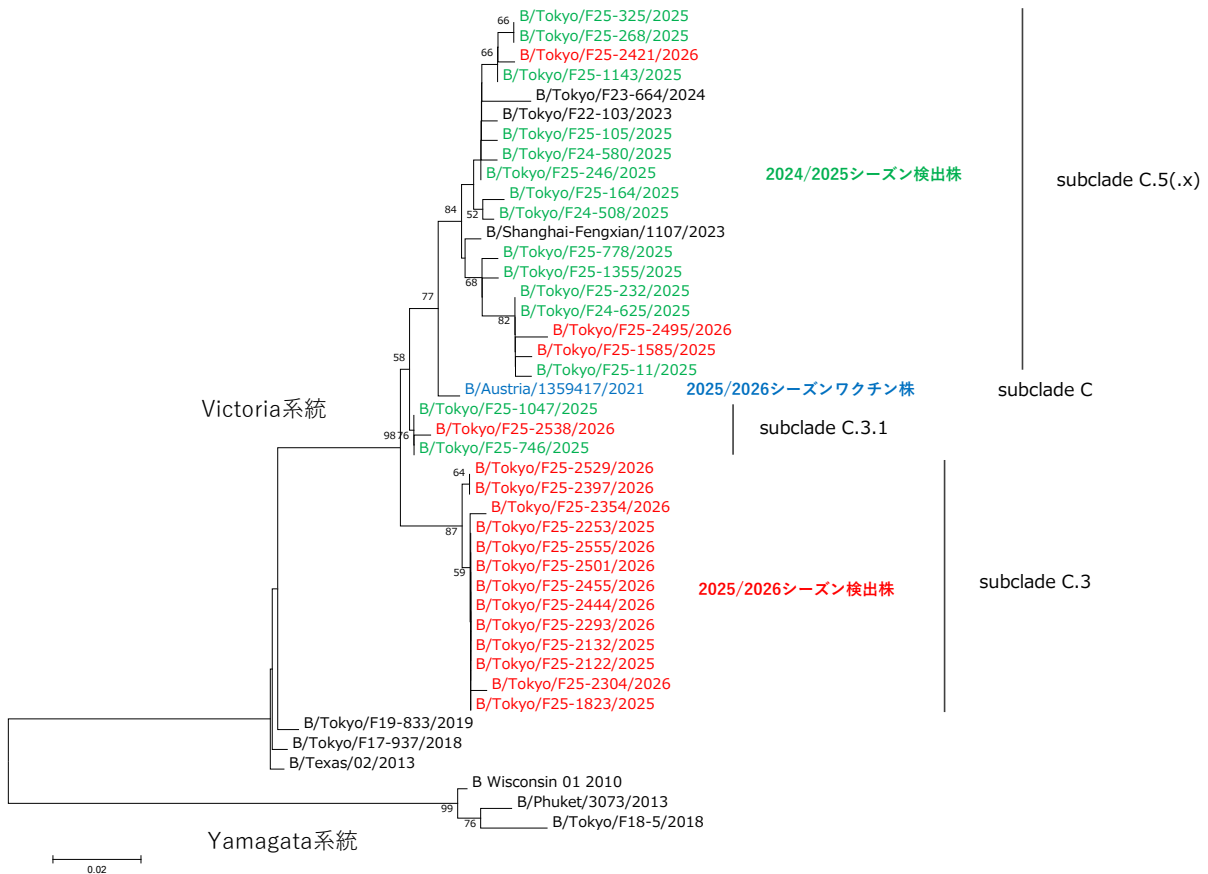


図4. B型インフルエンザウイルスの HA 遺伝子系統樹

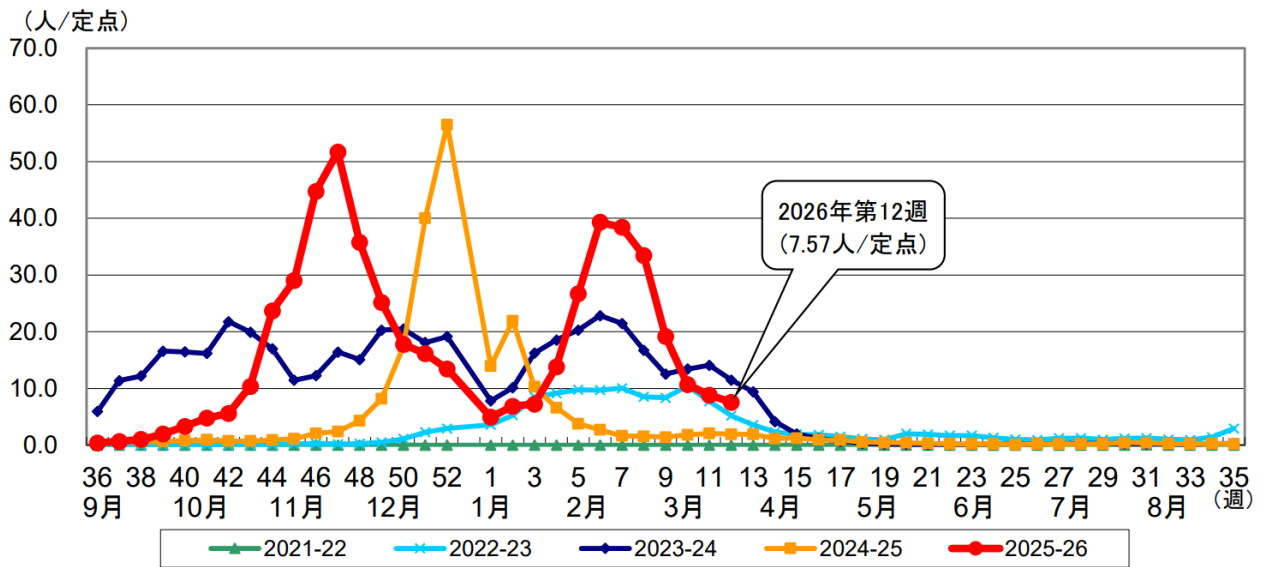


図5. インフルエンザ定点当たり患者報告数の推移  
 (引用：東京都インフルエンザ情報第26号 2026年3月27日発行)

表1 病原体搬入・検出状況(4種等)※

2026年4月分

機関名		コレラ菌	赤痢菌	チフス菌	パラチフス A菌	腸管出血性 大腸菌	結核菌
区	千代田区						
	中央区						
	港区					2	1
	新宿区						3
	文京						
	台東					1	
	墨田区						
	江東区					1	
	品川区						
	目黒区						2
	大田区						
	世田谷						2
	渋谷区						
	中野区						1
	杉並区						1
	豊島区						
	北区						
	荒川区						
	板橋区						1
	練馬区						
足立区							
葛飾区						1	
江戸川						1	
市	町田市						1
	八王子市						1
小計							15
都	西多摩					1	2
	多摩立川						2
	南多摩					1	2
	多摩府中					1	1
	多摩小平						2
	島しょ						
小計							9
合計						7	24

東京都健康安全研究 センター分離分						1	
----------------------	--	--	--	--	--	---	--

※2016年4月より、各保健所から搬入された検体を集計することとした

表2 検体搬入状況(全数把握対象疾患-五類)\*

2026年4月分

	検体数	2026年累計
侵襲性インフルエンザ菌感染症(菌)	1	24
侵襲性髄膜炎菌感染症(菌)	0	3
侵襲性肺炎球菌感染症(菌)	8	30
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症(菌)**	5	30
播種性クリプトコックス症(菌)	1	8
合計	15	95

\*2016年4月(第37巻・第4号)から追加 \*\*2023年5月本庁通知による名称変更

表3 病原微生物検出状況(食中毒関連)

2026年4月分

	菌種名	検体数	2026年累計
細菌	大腸菌		
	毒素原性		
	組織侵入性		
	病原血清型		
	腸管出血性		
	その他・不明		
	サルモネラ		
	04		1
	07		
	08		
	09		
	その他		
	不明		
	エルシニア・エンテロコリチカ		
	エルシニア・シュドツベルクローシス		
	腸炎ビブリオ		
	その他のビブリオ		
	エロモナス		
	プレジオモナス・シゲロイデス		
	カンピロバクター	13	40
	黄色ブドウ球菌		
F型ウエルシュ菌	11	59	
ボツリヌス菌			
F型ボツリヌス毒素産生性 クロストリジウム・バラティイ			
リステリア・モノサイトゲネス			
セレウス菌			
赤痢菌			
エシェリキア・アルベルティイ			
プロビデンシア・アルカリファシエンシス			
ウイルス	ノロウイルス(G I)		39
	ノロウイルス(G II)	52	640
	ノロウイルス(G I, G II)	1	2
	ロタウイルス		
	サポウイルス		
寄生虫	アニサキス	2	4
	クドア		
合計		79	785

**表4 HIV 検査数及び陽性数**

2026年4月分

	男性		女性		性別不明		合計	
	検査数	陽性数	検査数	陽性数	検査数	陽性数	検査数	陽性数
検査数	121	4	38	0	5	0	164	4
2026年累計	412	11	131	0	8	0	551	11

**表5 性感染症検査数及び陽性数**

2026年4月分

	梅毒検査		クラミジア遺伝子検査		淋菌遺伝子検査	
	検査数	陽性数	検査数	陽性数	検査数	陽性数
検査数	160	10	182	9	123	1
2026年累計	539	32	678	27	497	5

表6 定点把握疾患別病原体分離状況（ウイルス）

2026年過去3か月

定点種別	対象疾患名	検出病原体	2月	3月	4月	合計
急性呼吸器感染症 (小児科・内科)		RSウイルス	2			2
		エンテロウイルス				
		アデノウイルス	1	1		2
		インフルエンザウイルス AH1pdm09	1			1
		インフルエンザウイルス AH3	10	1		11
		インフルエンザウイルス B型 Victoria 系統	87	72		159
		ヒトメタニューモウイルス	1	2		3
小児科	不明発疹症	アデノウイルス				
		エンテロウイルス				
	手足口病	RSウイルス				
	突発性発疹	エンテロウイルス				
眼科	流行性角結膜炎	アデノウイルス		1		1

◆東京都微生物検査情報◆

2026年5月29日

編集・発行

東京都健康安全研究センター

東京都感染症情報センター

〒169-0073

東京都新宿区百人町 3-24-1

TEL : 03-3363-3213

FAX : 03-5332-7365

S1153803@section.metro.tokyo.jp

<https://idsc.tmiph.metro.tokyo.lg.jp/>

(2023年7月1日よりURLを変更しました)